

**[成果情報名]山梨シャモの新系統(新山梨シャモ候補鶏)を利用した甲州地どりの能力**

**[要約]**新山梨シャモ候補鶏を甲州地どりの父系として利用することで、甲州地どりの出荷時の発育体重が4.4%増加するとともに斉一性が高まる。一方、モモ肉の味分析については、現在の甲州地どりと遜色がない。

**[担当]**山梨県畜産酪農技術センター・養鶏科・松下浩一

**[分類]**技術・普及

---

**[課題の要請元]**

部門別農業代表者、山梨県養鶏協会、畜産普及センター

**[背景・ねらい]**

甲州地どりを生産するにあたり、父系には山梨で閉鎖群育種したシャモ（山梨シャモ）を用いているが、現在の山梨シャモは近交係数が17%以上（G17世代）となっており、今後の継続交配により種鶏の能力低下が懸念される。そこで、平成28年度に外部よりサツマ種を導入し、新系統の山梨シャモの作出を行っているところである。一方、甲州地どりの生産においては、今後は新系統山梨シャモに移行することとなるため、母系である白色プリマスロックとの相性調査を行う必要がある。そこで、父系に新旧山梨シャモを用いた際の生産性や肉質等の能力比較を行う。

**[成果の内容・特徴]**

新山梨シャモ候補鶏（SAY）を用いて甲州地どりを生産した結果、現在の山梨シャモ（Y）を用いた場合と比較して

1. 98日齢時および119日齢時の体重が雌雄いずれも増加し、119日齢時においては雌ヒナで有意に増加する（図1）。
2. 出荷時の体重のバラツキが小さくなる（図2）。
3. 出荷時の腹腔内脂肪蓄積率が10.3%低減する（図3）。
4. モモ肉における味分析では、現在の甲州地どりとほぼ同等である（図4）。

**[成果の活用上の留意点]**

1. 甲州地どりの商業生産については本成果が適用できるが、甲州頬落鶏の商業生産については母系（新山梨シャモ×白ロック交配鶏）の産卵性の調査が必要となる。

**[期待される効果]**

1. 甲州地どりの維持年限が延長するとともに、生産性の向上による収益増が期待できる。

[具体的データ]

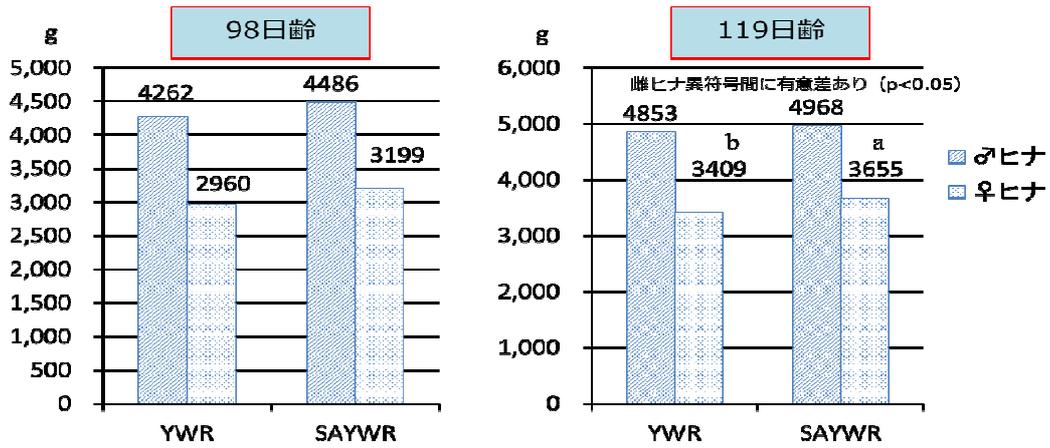


図1 発育体重

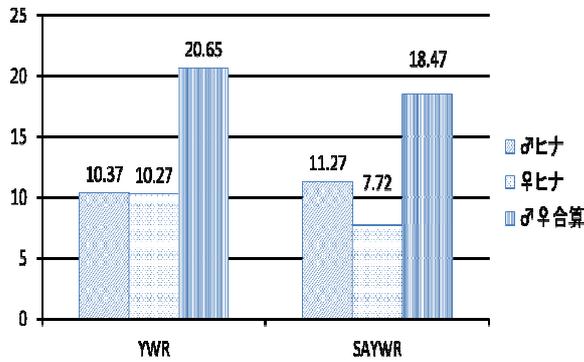


図2 体重における変動係数 (119d)

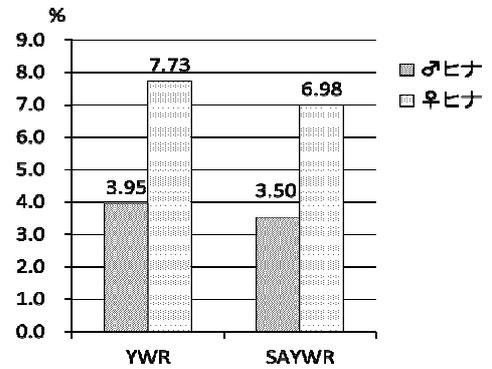


図3 腹腔内脂肪蓄積率 (119d)

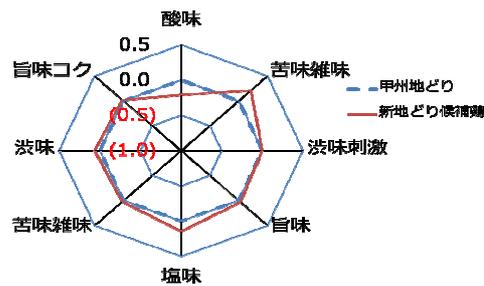


図4 モモ肉におけるおいしさの比較 (対甲州地どり)

[その他]

研究課題名：シャモの維持と増殖

予算区分：県単

研究期間：2015～2017年度

研究担当者：松下浩一、小林那美香